

## 2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 ビート・ホールディングス・リミテッド 上場取引所 東証スタンダード市場  
 コード番号 9399 URL <https://www.beatholdings.com>

代表者 (役職名) 最高経営責任者  
 (氏名) チン・シャン・ファイ  
 問合せ先責任者 (役職名) 最高財務責任者  
 (氏名) チン・シャン・ファイ TEL (香港) (852) 3196-3977  
 問合せ先 (役職名) IR室マネージャー  
 (氏名) 高山 雄太 TEL (日本) (03) 4570-0741

定時株主総会開催予定日 2023年6月頃 配当支払開始予定日 -

有価証券報告書提出予定日 2023年3月29日頃

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

(千米ドル及び百万円未満四捨五入)

### 1. 2022年12月期の連結業績 (2022年1月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益	
	千米ドル (百万円)	%	千米ドル (百万円)	%	千米ドル (百万円)	%	千米ドル (百万円)	%
2022年12月期	2,298 (305)	△40.2	△2,274 (△302)	-	△2,366 (△314)	-	△2,373 (△315)	-
2021年12月期	3,845 (510)	△42.2	△4,195 (△557)	-	△6,075 (△806)	-	△15,785 (△2,095)	-

(注) 1. 包括利益 2022年12月期：△2,326千米ドル (△309百万円)

2021年12月期：△15,509千米ドル (△2,058百万円)

2. 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	米ドル (円 銭)	米ドル (円 銭)	%	%	%
2022年12月期	△0.04 (△5.31)	- (-)	303.1	△9.7	△99.0
2021年12月期	△0.28 (△37.16)	- (-)	-	△72.1	△109.1

(注) 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。

(参考) 持分法投資損益 2022年12月期：△34千米ドル (△4百万円)

2021年12月期：△56千米ドル (△7百万円)

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	%	米ドル (円 銭)
2022年12月期	43,966 (5,834)	1,379 (183)	3.1	△0.04 (△5.31)
2021年12月期	4,627 (614)	△2,945 (△391)	△63.7	△0.05 (△6.64)

(注) 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。

(参考) 自己資本 2022年12月期：1,379千米ドル (183百万円)

2021年12月期：△2,945千米ドル (△391百万円)

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)
2022年12月期	491 (65)	△77 (△10)	29,083 (3,859)	32,752 (4,346)
2021年12月期	△5,540 (△735)	△359 (△48)	6,425 (853)	3,182 (422)

(注) 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。

2. 配当の状況

(基準日)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	米ドル (円 銭)				
2021年12月期	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
2022年12月期	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
2023年12月期 (予想)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

3. 2023年12月期の連結業績予想 (2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	米ドル (円 銭)
第2四半期(累計)	1,323 (175) 26.7	△1,292 (△171) -	△1,362 (△181) -	△1,363 (△181) -	△0.02 (△2.65)
通 期	2,656 (352) 15.6	△2,596 (△345) -	△2,619 (△348) -	△2,620 (△348) -	△0.04 (△5.31)

- (注) 1. 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。  
 2. 1株当たりの当期純利益を算出するために使用した平均株数は、比較を容易にするため、2022年12月期における株数(普通株式及び優先株式)と同じであることを仮定しております。  
 3. 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

※ 注記事項

(1) 2022年12月期における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 有・

無

新規 0社

除外 0社

(注) 2022年12月期における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・

(3) 発行済株式数（普通株式、優先株式及び転換劣後株式）

① 期末発行済株式数 （自己株式を含む）	2022年 12月期	75,560,057.79株	2021年 12月期	60,560,057.79株
② 期末自己株式数	2022年 12月期	0株	2021年 12月期	0株
③ 期中平均株式数	2022年 12月期	60,971,016.69株	2021年 12月期	57,105,550.99株

（注）転換劣後株式は、2022年12月22日に発行しております。

※ 監査手続の実施状況に関する表示

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 当社の子会社や製品の提供における統合、再編、活動及び変更に関するものを含む、取得又は処分に関するリスク及び不確実性
- 現行の経済状態
- 会計原則、方針又は規則の変更
- 資本又は金融市場におけるマイナスの変化又は状態
- 一般的に適用されるか当社及びその関連会社に特定されるかに関わらず、税務又は法律問題に関する、法律、規則、命令若しくは運用の変更
- その他、当社の事業、製品及びサービスのプライシングに影響を与える経済、競争、政治及び規制要素
- 本書の「事業等のリスク」に記載されているリスク要因

(参考1) 国際財務報告基準 (IFRS) による連結業績 (2022年1月1日~2022年12月31日)

1. 2022年12月期の国際財務報告基準 (IFRS) による連結業績 (2022年1月1日~2022年12月31日)

	売上高	E B I T D A	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益
	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	米ドル (円 銭)	米ドル (円 銭)
2022年12月期	2,298 (305)	△2,067 (△274)	△2,364 (△314)	△0.04 (△5.31)	- (-)
2021年12月期	2,171 (288)	△10,117 (△1,342)	△14,791 (△1,963)	△0.26 (△34.50)	- (-)

- (注) 1. 持分法投資損益 2022年12月期: △34千米ドル (△4百万円)  
2021年12月期: △56千米ドル (△7百万円)
2. 2021年度においては、特定のセグメントが IFRS に基づき、非継続事業として分類され、売上高及び EBITDA から除外されています。
3. 期中平均普通株式数 (連結) 2022年12月期: 60,971,016.69株; 2021年12月期: 57,105,450.99株
4. 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱 UFJ 銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。
5. 当社の IFRS に基づく連結財務諸表に関する EBITDA は、支払利息、税額、減価償却費及び償却費控除前の利益 (損失) です。

2. 2023年12月期の国際財務報告基準 (IFRS) による連結業績予想 (2023年1月1日~2023年12月31日)

	売上高	E B I T D A	親会社株主に 帰属する 当期純利益
	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)	千米ドル (百万円)
第2四半期連 結累計期間	1,323 (175)	△1,180 (△157)	△1,422 (△189)
通 期	2,656 (352)	△2,371 (△315)	△2,739 (△363)

- (注) 1. 「円」で表示されている金額は、2022年12月30日現在の株式会社三菱 UFJ 銀行の対顧客電信売買相場の仲値である1米ドル=132.70円で換算された金額です。
2. 当社の IFRS に基づく連結財務諸表に関する EBITDA は、支払利息、税額、減価償却費及び償却費控除前の利益 (損失) です。
3. 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

**国際財務報告基準 (IFRS) と日本の会計基準 (日本 GAAP) における純損益の差異について**

当社が IFRS を適用した場合、日本 GAAP との重要な差異は以下を含みます。

- 1) のれん  
日本 GAAP では、20年を上限とする期間でのれんを償却することを義務付けております。当社グループののれんは、定額法にて5年から20年間で償却されております。
- 国際会計基準 (IAS) 36の下では、2004年3月31日以降に買収した子会社に関連するのれんは償却されず、少なくとも年一回以上の減損テストを行います。
- 2) のれん、無形資産及び有形固定資産の減損損失  
日本 GAAP では、非流動資産 (のれん、無形資産及び有形固定資産を含む) の減損損失を認識するかの判断に使用する将来の見積割引前キャッシュ・フローの割引は20年を上限とします。
- IFRS では、固定資産 (のれんや無形資産を含む) 割引キャッシュ・フローによる減損判定に加え、買収した子会社の純資産の回復可能性の検討が行われ、これに伴い、日本 GAAP においては追加的にのれんの減損が発生することがあります。

3) 支配権の異動を伴わない追加取得の場合

日本 GAAP では、支配権の異動を伴わない追加取得について、支払った対価と取得した非支配持分の帳簿価額との差額を資本剰余金に計上しています。

IFRS では、支払対価と取得した非支配持分の帳簿価額との差額は、利益剰余金に計上されます。

4) 新株交付費

日本 GAAP では、新株交付費は支出時に費用処理を行うか、又は資産計上し3年を上限とする期間でこれを償却することが義務付けられています。

IFRS では、新株発行に直接的に起因する外部費用は、資本の控除（税引き後）項目として表示されます。

5) 上場関連費

日本 GAAP では、上場関連費は支出時に費用処理を行うことが義務付けられています。

IFRS では、新株発行に際して上場に直接的に起因する外部費用は、資本の控除（税引き後）項目として表示されます。

6) 株式報酬

日本 GAAP の下では、2006年5月1日より前に発生した株式による報酬取引に対する特定の会計基準はありませんでした。2006年5月1日以降に発生する株式による報酬取引については、従業員に対するストック・オプション等の付与に関連した費用も含む報酬取引の影響を損益及び財政状態に反映させることが要求されます。

IFRS 第2号では、株式による報酬取引の会計は、従業員に対するストック・オプション等の付与に関連した費用を含む、株式による報酬取引の影響を損益及び財政状態に反映させることを要求しております。株式による報酬取引は付与日の時価によって測定されることとなります。測定された当該時価は償却期間中の株価変動の影響を受けず、権利確定期間に渡って定額法に基づき償却を行っていきます。なお、当該 IFRS 第2号を2005年1月1日に開始する会計年度より前に適用した場合は、当該事実を開示する必要があります。

7) 償還可能優先株式

日本 GAAP では、2014年8月に発行されたA種優先株式は、償還が可能となっておりますが、資本として計上されます。

IFRS では、当該A種優先株式は公正価値にて負債として計上されます。公正価値の変動は、損益計算書にて調整されます。

8) 新株予約権

日本 GAAP では、ストック・オプション等として、当該ストック・オプション等の付与時の価値を公正な評価額で認識することが求められています。ストック・オプション等に係る意図及び条件の変更がない限り、ストック・オプション等の価値は再評価されません。新株予約権の行使に伴い株式が発行された場合、予約権として計上されている部分は、資本剰余金として再分類されます。

IFRS では、当該ストック・オプション等の付与時の価値として測定された公正価値は、オプション負債として認識されます。オプション負債は各報告期間の末日に再評価されその評価差額は、公正価値の変動として損益認識されます。新株予約権の行使に伴い株式が発行された場合、オプション負債として計上されている部分は、資本剰余金として再分類されます。

9) 関係会社株式

日本 GAAP では、持分法を適用した日に関係会社の貸借対照表において認識された資産及び負債の公正価値を測定し、当該関係会社の純資産は公正価値に調整されます。取得原価が当該関係会社の調整後純資産を超える部分は、のれんとして計上され、20年以内に償却されます。一方、当

該関係会社の調整後純資産が取得原価を超える部分がある場合は、負ののれんとして認識され、損益勘定を通して、持分法による投資利益として認識されます。

IFRS では、関係会社の持分は持分法が適用され、当初は取得原価で認識されます。関係会社の認識可能な資産及び負債の純公正価値のうち当社グループの持分が、投資額を超える部分は、のれんとして計上されます。のれんは、投資額の帳簿価格に含まれます。認識可能な資産及び負債の純公正価値のうち当社グループの持分が、取得原価を超える部分がある場合は、損益勘定を通して、関係会社株式の公正価値の評価益として認識されます。

#### 10) 暗号資産

日本 GAAP では、暗号資産は流動資産の暗号資産として計上され、活発な市場があるため損益を通じて公正価値で測定されます。

IFRS では、暗号資産は無形資産として計上され、取引を目的として保有していないため、取得原価から減損額を差引き測定されます。

#### (参考2) 連結子会社 (GINSMS Inc.) の 2022 年 12 月期第 4 四半期及び 2022 年 12 月期通期の業績 (要約損益計算書) について

当社の連結子会社である GINSMS Inc. (以下「GINSMS」といいます。) の 2022 年 12 月期第 4 四半期及び 2022 年 12 月期通期の要約連結損益計算書は以下のとおりです。

GINSMS が 2023 年 2 月 13 日付 (現地時間) でカナダの情報開示システム SEDAR (<http://www.sedar.com/>) にて開示したニュース・リリース「GINSMS ANNOUNCES FINANCIAL RESULTS FOR THE THREE AND TWELVE MONTHS ENDED DECEMBER 31, 2022 AND PROVIDES FINANCIAL FORECASTS FOR YEAR 2023」「GINSMS の 2022 年 12 月期第 4 四半期及び 2022 年 12 月期通期の財務結果並びに 2023 年の業績予想に関するお知らせ」からの抜粋となります。

GINSMS の 2022 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日の財務情報は、国際会計基準審議会 (IASB) が策定する国際財務報告基準 (IFRS) に従い作成されております。

#### GINSMS の要約損益計算書：

通貨：カナダドル 負数：() 内にて表示	自 2022 年 10 月 1 日 至 2022 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2021 年 10 月 1 日 至 2021 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2022 年 1 月 1 日 至 2022 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2021 年 1 月 1 日 至 2021 年 12 月 31 日 (監査済)
売上高				
A2P メッセージング・サービス	371,524	347,813	1,428,885	1,338,627
ソフトウェア製品・サービス	506,822	347,140	1,595,248	1,392,707
	878,346	694,953	3,024,133	2,731,334
売上原価				
A2P メッセージング・サービス	229,048	228,973	951,718	1,016,352
ソフトウェア製品・サービス	291,601	177,198	910,862	691,748
	520,649	406,171	1,862,580	1,708,100
売上高総利益				
A2P メッセージング・サービス	142,476	118,840	477,167	322,275
ソフトウェア製品・サービス	215,221	169,942	684,386	700,959
	357,697	288,782	1,161,553	1,023,234

通貨：カナダドル 負数：() 内にて表示	自 2022 年 10 月 1 日 至 2022 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2021 年 10 月 1 日 至 2021 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2022 年 1 月 1 日 至 2022 年 12 月 31 日 (未監査)	自 2021 年 1 月 1 日 至 2021 年 12 月 31 日 (監査済)
売上高総利益率%				
A2P メッセージング・サービス	38.3%	34.2%	33.4%	24.1%
ソフトウェア製品・サービス	42.5%	49.0%	42.9%	50.3%
	40.7%	41.6%	38.4%	37.5%
調整後 EBITDA <sup>(1)</sup>	(17,987)	166,509	75,120	387,645
調整後 EBITDA 率%	(2.0)%	24.0%	2.5%	14.2%
純利益 (純損失)	(20,507)	131,651	(32,284)	281,162
売上高純利益率 (純損失)%	(2.3)%	18.9%	(1.1)%	10.3%
1 株当たり純利益 (純損失) 及び潜在株式調整後 1 株当たり純利益(純損失)	(0.009)	0.088	(0.020)	0.187

- (1) 調整後 EBITDA は、IFRS のもとでは標準化された意味を持たず IFRS に基づかない指標です。調整後 EBITDA は、税引き前、減価償却前及びのれんの償却前（売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる）並びに利息費用を除外した現金収入に係る指標として定義されており、特定の経常外費用又は現金を伴わない費用及び収入を除外しております。IFRS に基づかない当該指標は、IFRS のもとでは認識されておりません。そのため、株主の皆様においては、当該指標が IFRS に従い決定される純利益に代わるものとして解釈されるべきではないことをご注意ください。また、提示される IFRS に基づかない当該指標は、その他の発行会社により提示される類似した指標と比較し難いと考えております。GINSMS としては、調整後 EBITDA は、GINSMS が、運転資金、利息及び負債の支払い、また将来の成長のための資金として使用できる事業から得られる現金を測定する有益な財務指標であると考えております。
- (2) 参考として、2022 年 12 月 30 日現在のカナダドルと日本円の為替レート（株式会社三菱 UFJ 銀行の外国為替相場（仲値））は、1 カナダドル=97.89 円、また米ドルとカナダドルの為替レート（South China Morning Post より）1 米ドル=1.35 カナダドルです。

(参考 3) 連結子会社（GINSMS Inc.）の 2023 年 12 月期の業績予想について

当社の連結子会社である GINSMS の 2023 年 12 月期の業績予想は以下のとおりです。

GINSMS が 2023 年 2 月 13 日付（現地時間）でカナダの情報開示システム SEDAR (<http://www.sedar.com/>) にて開示したニュース・リリース”GINSMS ANNOUNCES FINANCIAL RESULTS FOR THE THREE AND TWELVE MONTHS ENDED DECEMBER 31, 2022 AND PROVIDES FINANCIAL FORECASTS FOR YEAR 2023”「GINSMS の 2022 年 12 月期第 4 四半期及び 2022 年 12 月期通期の財務結果並びに 2023 年の業績予想に関するお知らせ」からの抜粋となります。

GINSMS の業績予想：

要約損益	予想	予想	予想	予想
通貨：カナダドル 負数：() 内にて表示	2023 1 月～3 月	2023 4 月～6 月	2023 7 月～9 月	2023 10 月～12 月
売上高				
A2P メッセージング・サービス	296,011	299,727	303,489	307,298
ソフトウェア製品・サービス	596,751	596,751	596,751	596,751
	892,762	896,478	900,240	904,049
売上原価				
A2P メッセージング・サービス	242,143	245,182	248,260	251,376

要約損益	予想	予想	予想	予想
通貨：カナダドル 負数：() 内にて表示	2023 1月～3月	2023 4月～6月	2023 7月～9月	2023 10月～12月
ソフトウェア製品・サービス	375,959	375,959	375,959	375,959
	618,102	621,141	624,219	627,335
売上総利益				
A2P メッセージング・サービス	53,868	54,545	55,229	55,922
ソフトウェア製品・サービス	220,792	220,792	220,792	220,792
	274,660	275,337	276,021	276,714
売上総利益率 %				
A2P メッセージング・サービス	18.2%	18.2%	18.2%	18.2%
ソフトウェア製品・サービス	37.0%	37.0%	37.0%	37.0%
	30.8%	30.7%	30.7%	30.6%
販売費及び一般管理費	(190,232)	(190,232)	(190,232)	(190,232)
営業利益又は損失	84,428	85,105	85,789	86,482
営業外収益 <sup>(1)</sup>	-	-	-	-
営業外費用 <sup>(1)</sup>	(1,081)	(1,081)	(1,081)	(1,081)
経常利益又は損失	83,347	84,024	84,708	85,401
特別利益	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	-
税金等及び非支配株主損益調整前純利益	83,347	84,024	84,708	85,401
法人税	-	-	-	-
非支配株主損益	-	-	-	-
四半期純利益	83,347	84,024	84,708	85,401
調整後 EBITDA <sup>(2)</sup>	104,468	105,145	105,829	106,522

- (1) 営業外収益には、受取利息及びその他営業外収益を含みます。営業外費用には、為替差損及び利息費用を含みます。
- (2) 調整後 EBITDA は、IFRS のもとでは標準化された意味を持たず IFRS に基づかない指標です。調整後 EBITDA は、税引き前、減価償却前及びのれんの償却前（売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる）並びに利息費用を除外した現金収入に係る指標として定義されており、特定の経常外費用又は現金を伴わない費用及び収入を除外しております。IFRS に基づかない当該指標は、IFRS のもとでは認識されておりません。そのため、株主の皆様においては、当該指標が IFRS に従い決定される純利益に代わるものとして解釈されるべきではないことをご注意ください。また、提示される IFRS に基づかない当該指標は、その他の発行会社により提示される類似した指標と比較し難いと考えております。GINSMS としては、調整後 EBITDA は、GINSMS が、運転資金、利息及び負債の支払い、また将来の成長のための資金として使用できる事業から得られる現金を測定する有益な財務指標であると考えております。
- (3) 参考として、2022 年 12 月 30 日現在のカナダドルと日本円の為替レート（株式会社三菱 UFJ 銀行の外国為替相場（仲値））は、1 カナダドル=97.89 円、また米ドルとカナダドルの為替レート（South China Morning Post より）1 米ドル=1.35 カナダドルです。

上記の業績予想の作成にあたり使用した重要な要因及び前提には、以下が含まれます。

- a. GINSMS の主要な顧客との事業が継続すること。2022 年 12 月期通期のソフトウェア製品・サ

ービス部門の売上高総利益率は 42.9%を達成し、重要な顧客との事業から得られる売上が増加する見込みであることを踏まえ、2023 年における売上高総利益率を 37.0%とする予想は、妥当かつ達成可能であると考えられること。2022 年における工数率は、市場で普及している率と整合していたため、2023 年の予算にて、給与が増加している一方で 2023 年の工数率の増加率が減少するものとした。経営陣は、売上高及び売上高総利益の予想が保守的また合理的であると考慮していること。

- b. 2021 年 12 月期通期と比較し、2022 年 12 月期通期の A2P 事業のトラフィック成長率が 17.4%増加したこと。東南アジア及びその他の地域において、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況が改善し、政府による人々の移動に関する規制が撤廃され、結果として事業活動が増加したことで、より高く成長したこと。また、GINSMS は売上高総利益率を改善するため製品及びサービスの価格を調整したこと。2021 年 12 月期通期と比較し、2022 年 12 月期通期の売上は 6.7%増加した中、売上高総利益率は、33.4%に増加し、2021 年 12 月期通期の 24.1%と比べ増加したこと。2022 年 12 月期第 4 四半期の売上高総利益率 38.3%は、2021 年 12 月期第 4 四半期と比べ GINSMS の事業が COVID-19 の流行の影響を受けたことから回復し、売上高総利益が増加したことを示している。COVID-19 の流行による影響の度合は、非常に不確実で予測不可能な将来の開発に依存している。引き続き COVID-19 の状況を監視するが、今期の事業への影響は前期より少ないと考えていること。
- c. 上記 b に記載以外に GINSMS のサービスの価格に重要な影響を与え、結果として各事業部門の売上高総利益の変更を生じさせるような、重要な環境（競争を含む）の変化が GINSMS の事業を行う地域において起こらないこと。
- d. GINSMS の A2P メッセージング・サービス部門の顧客に対して追加的な付加価値サービスを適宜完成及び提供できること。
- e. 利害関係者は、2019・2020 年よりローン及び支払手形を有利子から無利子に変更することに同意しており、2023 年において当該利息は発生しない見込みである。
- f. GINSMS が販売活動を行うため、継続してローン等により資金調達できること。